

名古屋第一赤十字病院初期臨床研修プログラム（小児科）

1. 名称

名古屋第一赤十字病院初期臨床研修プログラム（小児科）

2. 病院理念

皆さまとの出会いを一期のことと心得、その痛みを分かちあい、苦しみを共にしつつ、一日も早く健康の幸せを喜びあえるよう努めます。

3. 臨床研修理念

医療に必要な不可欠な知識や技術の習得により、いかなる状況下でも人間の命と健康、尊厳を守る能力を身につけることを目的とする。

名古屋市西部という都市部における社会構造・高齢化など地域にとって必要な医療を理解し、在宅医療などの社会医療サービスとの連携をはかり、地域医療貢献の修得を目的とする。

4. プログラムの目標と特色

1) 臨床研修の目標

臨床に携わる全ての医師が、初期診療において必要な診断、治療上の基本的知識、技能を習得するとともに、望ましい医師としての態度を身につけることを目的とする。

このプログラムの臨床研修一般目標は以下のとおりである。

- (1) 各領域にわたる基本的な診療（プライマリケア）能力を身につける。
- (2) 頻度の高い疾病や外傷の診断と治療ができる。
- (3) 救急の初期診療を習得する。
- (4) 患者およびその家族との信頼関係を確立できる。
- (5) チーム医療の必要性を理解し、実践できる。
- (6) 在宅医療などの社会医療サービスとの連携をはかり、地域医療を実践できる。

将来、小児科を目指す医師が小児の初期診療において診断および治療上必要な知識と技術を得ると共に小児科医にふさわしい診療態度を身につけることを目標とする。その具体的内容を以下に示す。

- (7) 小児科疾患の各専門分野の診断および治療を知る。
- (8) 患児のみならずその保護者との信頼関係も築く。

2) 研修プログラムの特色

名古屋第一赤十字病院小児医療センターは名古屋市西部および尾張西部における小児医療の中心的存在であり、その病床数は100床以上と愛知県下では有数の病床数を有する。当科では小児の一般的小児および救急疾患から専門的な疾患まで多種多様な症例を豊富に経験でき病床数 852 床の総合病院の中に位置するため将来小児科医を目指す医師にとっては極めて望ましい研修病院と考えられる。当センターは、27名の常勤医が在籍し、新生児科、血液腫瘍科、総合診療科の3つの専門診療グループに分かれている。腎臓疾患および児童精神部門は非常勤医師で対応している。新生児科は9名在籍し、当院の産婦人科と共に総合周産期母子医療センターを構成し、新生児に対する集中治療を行っている。血液腫瘍科は4名在籍し、小児病棟に無菌室14床（内個室は2床）を有し、急性白血病や固型腫瘍に対する化学療法および造血細胞移植を行っている。総合診療科は、感染症アレルギーなど一般的小児疾患や救急に対応するとともに、循環器科医が3名在籍して先天性心疾患や川崎病を中心に診療、心カテや心エコーを多数実施、また神経科医は1名在籍し、難治性てんかんや中枢神経系感染症を中心に診療を行っている。当センターでの初期研修の特色は1年目に小児の一般的疾患を中心に研修し、2年目に各専門グループに

属してその基礎的研修を行うことであり、いずれも必ず上級医とペアで主治医となって診療にあたる。また院内での日常診療のみならず研究会や学会への参加や発表も行う。このように小児科の基本的診療から出発し、次第に高度に専門分化した小児科領域に達することができるのが当院小児科の臨床研修プログラムの特徴である。

5. プログラムの概要

(a) 研修期間は 2 年間である。当院で臨床研修を受ける者は、医師国家試験に合格して医師免許を持つ者でなければならない。

(b) 時間割と研修医配置予定

最初の数日間の新入職員オリエンテーション(病院機構の説明を受け、各種コメディカルの業務内容を理解する)に続き、数日をかけて研修医師オリエンテーションで研修に必要な知識を習得する。1年目は内科系分野4ヶ月、外科系分野2ヶ月、麻酔科1ヶ月、救急分野1ヶ月、小児科1ヶ月、産婦人科1ヶ月、精神科0.5ヶ月を必須科とし、残りの1.5ヶ月を選択科目の研修期間として研修を行なう。2年目は内科系分野2ヶ月、外科系分野2ヶ月、小児科3ヶ月、地域医療1ヶ月、救急分野(救命救急センター)3ヶ月を必須科とし、残りの1ヶ月を選択科目の研修期間として研修を行なう。尚、この選択科目の期間を利用して必須科の再研修を行なうことも出来る。

なお、精神科研修(0.5ヶ月)と地域医療研修(1ヶ月)は外部研修とする。

(c) 研修内容と到達目標

総合診療方式に基づく各科カリキュラムを別途提示する。

(d) 救急診療の研修は救命救急センターでの研修および時間外救急外来における当直業務として行なう。

(e) 研修管理委員会主催の勉強会(毎日8時30分から救急部共催で行われる Morning Conference 及び毎週金曜日17時(第4金曜日のみ17時30分)から総合診療科共催で行われる Core Lecture)へ参加する。なお、毎月第4金曜日の Core Lecture は CPC を行う。また、毎月第4金曜日17時から開催される研修管理委員会連絡会議へ参加する。

(f) 病院全職員を対象とした教育講演会等にも参加する。

(g) 災害発生時には、指導医立会いのもと災害救護活動を行う。

6. プログラムの指導体制と研修協力病院、施設

1) プログラム指導者

宮田完志(名古屋第一赤十字病院長)

2) プログラム責任者及び副プログラム責任者

プログラム責任者 加藤剛二(第三小児科部長)

副プログラム責任者 錦見尚道(血管外科部長)

3) 名古屋第一赤十字病院各診療科指導責任者

| 診療科 | 責任者 | 診療科 | 責任者 |
|-------|----------|---------------------|---------|
| 内科 | 真野 和夫(兼) | 消化器内科 | 春田 純一※ |
| 腎臓内科 | 市田 静憲※ | 消化器内科 | 山口 丈夫 |
| 内分泌内科 | 尾崎 信暁※ | 精神科 | 太田 龍朗※ |
| 血液内科 | 宮村 耕一※ | 小児科(循環器) | 羽田野 為夫※ |
| 血液内科 | 小澤 幸泰 | 小児科(新生児) | 大城 誠 |
| 神経内科 | 真野 和夫※ | 小児科(血液) | 加藤 剛二〇 |
| 脳卒中科 | 後藤 洋二※ | 小児保健科 | 鬼頭 修 |
| 循環器内科 | 神谷 春雄※ | 一般・消化器外科(消化器) | 宮田 完志 |
| 循環器内科 | 柴田 義久 | 一般・消化器外科(消化器・大腸肛門病) | 竹内 英司※ |
| 循環器内科 | 丹羽 統子 | 一般・消化器外科(一般・消化器) | 三宅 秀夫 |
| 呼吸器内科 | 野村 史郎※ | 一般・消化器外科(一般・消化器) | 永井 英雅 |
| 呼吸器内科 | 横山 俊彦 | 一般・消化器外科(乳腺・内分泌) | 後藤 康友 |

| 診療科 | 責任者 |
|-------------|---------|
| 血管外科 | 錦見 尚道※ |
| 血管外科 | 山本 清人 |
| 心臓血管外科 | 伊藤 敏明※ |
| 心臓血管外科 | 前川 厚生 |
| 呼吸器外科 | 森 正一※ |
| 小児外科 | 金子 健一朗※ |
| 形成外科 | 林 祐司※ |
| 整形外科 | 大澤 良充 |
| 整形外科 | 堀井 恵美子※ |
| 整形外科 | 井上 英則 |
| 整形外科 | 洪 淑貴 |
| 脳神経外科 | 稲尾 意秀 |
| 脳神経外科 | 波多野 寿※ |
| 皮膚科 | 澤田 昌樹※ |
| 泌尿器科 | 鈴木 弘一※ |
| 泌尿器科・女性泌尿器科 | 加藤 久美子 |
| 泌尿器科 | 服部 良平 |
| 産婦人科 | 古橋 円※ |
| 産婦人科 | 水野 公雄 |
| 産婦人科 | 安藤 智子 |

| 診療科 | 責任者 |
|----------|-----------|
| 眼科 | 佐藤 英津子※ |
| 耳鼻咽喉科 | 柘植 勇人※ |
| 耳鼻咽喉科 | 寺田 聡広 |
| 麻酔科 | 横田 修一※ |
| 緩和ケア科 | 湯浅 典博(兼)※ |
| 化学療法内科 | 中野 祐往※ |
| 放射線科(診断) | 伊藤 茂樹※ |
| 放射線科(治療) | 山田 哲也※ |
| 歯科口腔外科 | 大岩 伊知郎※ |
| 病理 | 伊藤 雅文※ * |
| 病理 | 藤野 雅彦 |
| 救急部 | 花木 芳洋※ |
| 健診部 | 渡邊 保子※ |
| 検査部 | 湯浅 典博※ |

*: 研修管理委員長
○: プログラム責任者
※: 診療科別研修責任者

本院が教育施設として認定されている認定医および専門医学会名

- ・ 日本内科学会認定医制度教育病院
- ・ 日本小児科学会専門医制度研修施設・専門医研修支援施設
- ・ 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・ 日本外科学会専門医修練施設
- ・ 日本整形外科学会専門医研修施設
- ・ 日本産科婦人科学会卒後研修指導施設
- ・ 日本眼科学会専門医研修施設
- ・ 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・ 日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・ 日本脳神経外科学会専門医指定訓練場所
- ・ 日本医学放射線学会専門医修練機関
- ・ 日本麻酔科学会認定病院
- ・ 日本病理学会研修認定病院A
- ・ 日本救急医学会専門医指定施設
- ・ 日本形成外科学会認定施設（専門医研修施設）
- ・ 日本リハビリテーション医学会研修施設（専門医の研修施設）
- ・ 日本口腔外科学会専門医研修機関
- ・ 日本消化器病学会認定施設
- ・ 日本循環器学会専門医研修施設
- ・ 日本呼吸器学会認定施設
- ・ 日本血液学会研修施設
- ・ 日本内分泌学会内分泌代謝認定教育施設
- ・ 日本糖尿病学会認定教育施設
- ・ 日本腎臓学会研修施設
- ・ 日本肝臓学会認定施設
- ・ 日本アレルギー学会
- ・ 日本神経学会専門医教育施設
- ・ 日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・ 日本呼吸器外科学会専門医制度認定施設
- ・ 呼吸器外科専門医認定機構基幹施設
- ・ 心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- ・ 日本小児外科学会教育関連認定施設

- ・日本小児神経学会研修施設
- ・日本小児循環器学会専門医修練施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医修練施設
- ・日本周産期・新生児医学会（新生児）基幹研修施設
- ・日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）暫定基幹研修施設
- ・日本生殖医学会専門医制度認定研修施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本超音波医学会専門医研修施設
- ・日本輸血・細胞治療学会指定施設
- ・日本病態栄養学会栄養管理・NST実施施設
- ・日本静脈経腸栄養学会（JSPEN）実地修練認定教育施設・NST稼働施設
- ・日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設
- ・日本透析医学会教育関連認定施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本婦人科腫瘍学会指定修練施設
- ・日本脳卒中学会専門医研修教育病院
- ・日本放射線腫瘍学会認定協力施設
- ・日本脳神経血管内治療学会研修施設
- ・日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医修練施設
- ・日本乳癌学会関連施設
- ・小児血液・がん専門医研修施設専門医研修施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本不整脈学会専門医研修施設
- ・日本手外科学会専門医研修施設基幹研修施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設
- ・日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医師制度準認定施設
- ・認定臨床微生物検査技師制度研修施設
- ・日本食道学会食道外科専門医認定施設
- ・日本乳癌学会関連施設
- ・日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医制度研修施設
- ・日本乳房オンコプラステイクサージャリー学会及びインプラント実施施設
- ・日本胆道学会認定施設

4) 臨床研修病院及び臨床研修協力施設

名古屋第一赤十字病院を基幹型研修病院とし、3精神科病院（愛知県立城山病院、名古屋大学医学部附属病院、医療法人同心会杉田病院）、石巻赤十字病院、名古屋市医師会参加複数診療所、愛知県赤十字血液センター、高山赤十字病院、秋田県厚生農業協同組合連合会雄勝中央病院等を協力型研修病院並びに研修協力施設とした名古屋第一赤十字病院臨床研修病院群を形成している（名古屋第一赤十字病院臨床研修病院群規定参照）。各施設の概要は病院案内等を参照のこと。

協力型臨床研修病院並びに教育責任者

| | | |
|---------------|----|------|
| 愛知県立城山病院 | 部長 | 村瀬真治 |
| 鵜飼リハビリテーション病院 | 院長 | 鵜飼泰光 |

| | | |
|--------------------------|-----|------|
| 高山赤十字病院（他診療所） | 院長 | 棚橋忍 |
| 名古屋大学医学部附属病院 | 教授 | 尾崎紀夫 |
| 秋田県厚生農業協同組合連合会 雄勝中央病院 | 院長 | 中村正明 |
| 愛知県がんセンター中央病院 | 副院長 | 岩田広治 |

臨床研修協力施設

| | |
|-----------------|--------------|
| 名古屋市精神保健福祉センター | 愛知県赤十字血液センター |
| 名古屋市医師会参加診療所 | 下伊那赤十字病院 |
| 新城市民病院他診療所 他診療所 | 石巻赤十字病院 |
| 医療法人同心会杉田病院 | |

5) 研修医の指導体制

研修する各科の指導責任者の総括のもとに、原則、研修医 1 名に、指導医又は上級医 1 名が、指導に当たる。時間外救急外来での救急疾患に関する研修は、救急部長の監督のもと、上級医が指導する。

協力型研修病院、研修協力施設における研修期間中は、当該教育責任者、指導医、上級医、指導者等の指導の下に研修を行なう。

- ・指導医…臨床経験が7年以上あり、かつプライマリケアの指導方法等に関する講習会を受講している研修指導医師
- ・上級医…上級の医師であり、研修医の指導に当たる医師
- ・指導者…医師以外で研修医の指導に当たる者（該当者は指導方法等に関する講習会の受講が望ましい）

7. 研修医の勤務時間

研修期間中は教育研修推進室に所属し、本院の就業規則に準ずる。協力型研修病院又は研修協力施設において研修中は、当該施設の就業規則に準ずるものとする。

8. プログラムの管理運営体制

プログラム指導者（院長）、副院長、研修管理委員会委員長、副委員長、プログラム責任者、研修医の代表、看護部門の責任者、薬剤部長から推薦を受けた医療職（二）表適用者、基幹型臨床研修病院事務局代表、協力型臨床研修病院及び臨床研修協力施設の研修実施責任者、外部委員等で名古屋第一赤十字病院臨床研修病院群臨床研修管理委員会（以下 病院群研修管理委員会）を構成する。本委員会は名古屋第一赤十字病院臨床研修病院群規程に基づいて運営される。病院群研修管理委員会は、年度開始前に会を開催し、前年度の研修結果を評価し、それに基づいてその年度の研修プログラム計画を立てる。研修プログラムの内容は、年度毎に名古屋第一赤十字病院の研修管理委員会に提出して承認を得るとともに、必要な修正を行った後に、研修手帳として纏めて公表し、研修希望者に配布する。定例の病院群研修管理委員会とは別に、必要があれば委員長は随時病院群研修管理委員会を招集し協議する。

全体を通して2年間を4つのセメスターに分け、研修医が希望する指導医が親身になって研修の指導や相談等を行うというシステム（メンター制）を採用している。

また、毎月第4金曜日 17 時から開催される研修管理委員会連絡会議では、研修を行う上で生ずる問題について協議する。

9. 研修医の自己評価及び指導医・指導者の研修医評価、研修医の指導科（医）評価

*評価は、院内ポータル上の研修評価管理システムを用いる。

1) 研修医による自己評価

研修医は、各科の研修終了後、速やかに、研修した事項の達成度を自己評価して入力する。

2) 指導医による研修医評価

各科の指導医は研修医の態度・知識および技能を評価し、院内研修評価管理システムにより入力する。また、評価については随時進捗状態を把握し、不足部分について指導を行うこととする。

3) 指導者による研修医評価

指導者は研修医の次の項目について評価する。

- (1)「服装・身だしなみ」
- (2)「挨拶・報告・連絡・相談」
- (3)「時間やルールの遵守」
- (4)「協調・親切・思いやり」
- (5)「学習意欲・向上心」
- (6)「責任感・リーダーシップ」
- (7)「節度・謙虚・慎重・忍耐」
- (8)「事務処理・記録」

4) 研修医の指導科（医）評価

研修医は各科研修終了後、速やかに各科の教育指導内容に対する評価を院内研修評価管理システムにて入力する。

5) 形成的評価と総合評価

- (1) 評価者は、研修期間ごとに、研修医の自己評価に加え、指導医および指導者と協議して行う。この際受け持ち患者や他の医療スタッフの意見も参考にする。
- (2) 各セメスター終了時点で、プログラム責任者は初期研修管理委員会と協議の上、研修医に履修が不十分な基本研修科目がある場合は、当該科目について再度の研修を行う事とする。
- (3) 全研修期間終了時点で、初期研修管理委員会が最終的な総合評価を行う。

10. プログラム修了の認定

研修修了の最終的な判定および研修修了証書の付与については名古屋第一赤十字病院臨床研修病院群研修管理委員会において行う。

11. プログラム修了後のコース—後期臨床研修プログラムについて—

初期臨床研修プログラム2年目前期までに後期臨床研修プログラムの専攻科を決める。初期臨床研修プログラム修了後は2～3年間、この内約3ヶ月間は救急部に所属する。また、地域医療の一環として医師派遣事業に参加している。専攻科以外の希望科があればローテートを考慮する。後期臨床研修プログラムは初期臨床研修と有機的に整合性を図っており、これまでも多くの初期臨床研修医を後期臨床研修医師として採用している。

初期臨床研修修了者の後期臨床研修医師採用実績

| | 初期臨床研修修了者数 (自治医科大学卒含む) | その内後期研修採用者数 (うち小児科専攻) |
|--------------|---------------------------|--------------------------|
| 平成 16・17 年度生 | 25 名 | 17 名 (2 名) |

| | | |
|--------------|------|------------|
| 平成 17-18 年度生 | 20 名 | 15 名 (4 名) |
| 平成 18-19 年度生 | 19 名 | 11 名 (0 名) |
| 平成 19-20 年度生 | 17 名 | 15 名 (1 名) |
| 平成 20-21 年度生 | 15 名 | 11 名 (1 名) |
| 平成 21-22 年度 | 21 名 | 17 名 (1 名) |
| 平成 22-23 年度 | 20 名 | 16 名 (2 名) |
| 平成 23-24 年度 | 23 名 | 17 名 (2 名) |
| 平成 24-25 年度 | 21 名 | 17 名 (2 名) |
| 平成 25-26 年度生 | 22 名 | 20 名 (2 名) |
| 平成 26-27 年度生 | 22 名 | |
| 平成 27-28 年度生 | 22 名 | |

1 2. 研修医の募集人員 (定員)

2 名

1 3. 研修医の処遇

- 1) 身分 : 初期臨床研修医師 (常勤嘱託)
【初期研修期間中のアルバイト禁止】
- 2) 給与 : 1 年次 約 330,000 円
※基本給 249,900 円+諸手当 (地域手当、時間外勤務手当等)
2 年次 約 370,000 円
※基本給 264,900 円+諸手当 (地域手当、時間外勤務手当等)
《給与については時間外勤務時間数等により変動があります》
- 3) 賞与 : 1 年次 約 640,000 円/年、2 年次 約 880,000 円/年
- 4) 勤務時間 : 8 : 50~17 : 20 (休憩 45 分) 時間外勤務あり
- 5) 休日 : 土日祝日、有給休暇 (初年度 10 日間)、創立記念日、夏季休暇、年末年始
- 6) 宿舎 : 単身用ワンルームタイプの宿舎有 (平成 21 年築) 冷暖房完備、オートロック
- 7) 研修医室 : 医局の一角にスペースあり
- 8) 社会保険等 : 健康保険/厚生年金/厚生年金基金/労働者災害補償/雇用保険
- 9) 健康管理 : 健康診断 (年 2 回)、各種予防接種 (任意) B 型ワクチン・インフルエンザ等
- 1 0) 学会等 : 参加可能、内規に基づき旅費の支給あり
- 1 1) その他 : 育児休業制度/院内託児施設/職員食堂完備/医師賠償責任保険 (任意)

1 4. 研修医の募集及び採用の方法

初期研修医は、別に定める募集要項及び選考方法により、応募者の中から名古屋第一赤十字病院 初期研修管理委員会が選考し、マッチングにより採用を決定する。

出願締め切り : 例年 8 月上旬

選考方法 : 例年 8 月中旬~下旬

名古屋第一赤十字病院 : 内ヶ島講堂

○適性検査 ○英語試験 (辞書持込可) ○SPI3-P

○面接試験

* 資料請求先：

〒453-8511

名古屋市中村区道下町3-35

名古屋第一赤十字病院 人事課 気付 研修管理委員会

Tel 052-481-5111 (内線 54145)

Fax 052-482-7733

E-mail kensyu-jimukyoku@nagoya-1st.jrc.or.jp